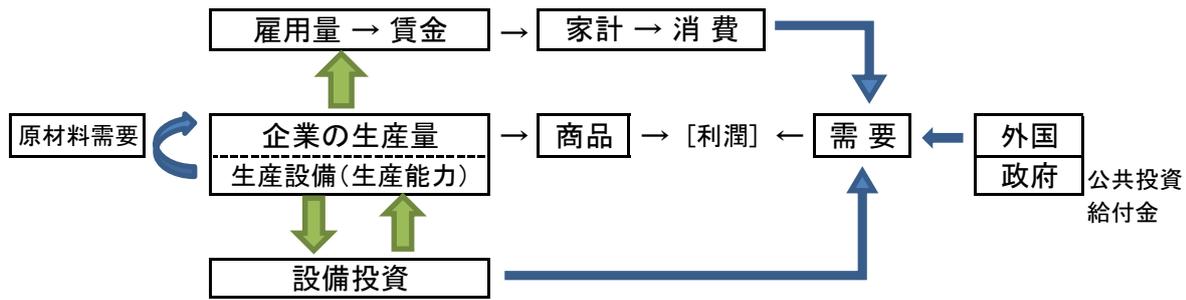


企業活動、設備投資と「二系列の需要波及」



企業の生産活動とは、需要(質と量の両面で)に適した商品の販売による利潤(=販売額－生産費)の獲得であり、利潤>0を条件に、企業はその生産活動をさらに続けることができる。

企業の生産活動の基盤は生産設備である。また、生産設備にはその機能値、または生産量の最大値、つまり生産能力がある。〔生産量÷生産能力〕を稼働率という。

生産能力によって雇用量の最大値と、原材料の需要量の最大値が決まる。そして実際の雇用量と原材料需要量は企業の生産量によって決まる。生産量は需要の従属変数である。

生産設備(ないし生産能力)は設備投資が完成した成果である。

設備投資が行なわれる期間(工期)には、[1](建設需要、生産設備需要などの)設備投資需要が他の企業に波及する。さらに、生産設備が完成して稼働を始めると、[2-1] 原材料需要が他の企業への需要として波及し、さらに[2-2] 雇用が発生し家計に賃金が支払われ、消費需要が発生し、これが他の企業への需要として波及する。これを「設備投資による**二系列の需要波及**」と呼ぶ。

輸出需要(外国からの需要)は、外国経済の動向に従属する。また政府需要は政府による独立需要であるが、税収の制約がある。

企業がうけとる需要は、設備投資需要および/または消費需要である。そして消費需要は雇用量によって決まるから、消費需要は設備投資の従属変数である。つまり資本主義経済の需要は究極的には設備投資によって決定される。

企業による設備投資は、需要と利潤が期待できなければ実行されないし、個々の企業は需要を支配できない。ところが需要は、究極的には設備投資(の連鎖)によって決定される。

参考:

山家(2005)「景気の自律的拡張のメカニズム」 127-128

出発点は、需要の増加(政府、輸出、過剰在庫の終了) → 生産の増加 → 賃金、雇用、家計の需要 → (企業の)生産増加、設備投資増加。

前二者(政府と輸出)は外在的要因。「過剰在庫の終了」は、稼働率上昇にとどまり、設備投資にはつながらない。